

製本のススメ

Vol. 183

今年の秋は雨が長いですね。運動会もなかなか日程調整がうまくいきません。With コロナも日常となって、キャンペーンも動き出しました。経済も動かさな
いまですが、明るい話題を探して元気出していきましょう！

今回は**前号の続き**の話し

前号では規格の色々をお話しましたが、ならば製本の規格ってなんだ？という事で、**版型の規格はB6です**と、まずお伝えしておきましょう。規格と言うと他にも使い方がありますので、基準と読み替えても良いと思います。そもそも論になりますが、日本には和紙という文化があり、最も多く採用された和紙が「美濃和紙」です。美濃判というサイズを見聞きした方もいらっしゃるでしょうが、習字の半紙のサイズ位です。ここに海外から洋紙がやってきて共通のサイズは何処かと協議した結果 だいたいB6くらいの大きさという事に落ち着きました。そこで国内での冊子サイズの基準をB6と決めたそうです。冊子の需要も高まり製本機械もB6基準として進化してきました。当然ながら冊子に関するあらゆる加工が、B6の刷り本に対し出来上がっています。折加工ではB6仕上りの16頁折・32頁折・64頁折を基準に、様々な機械が出来てきました。その他PP加工などは主に表紙に施される場合が多く、**何面も掛け合わせして印刷されることが一般的**で、そのため基準サイズが四六判半才です。最近ではA列の用紙が主流になりつつありますが、冊子の基準はB6です。さらに、この冊子とは上製本が基準になっています。製本加工の工程が一番多くまたそれに伴う表紙廻りや糸綴りなどの加工も工程が多いために、積算の基準になったと言われています。現在も上製本ではこの積算基準が生かされておりB6上製本3000冊が、一つの目安です。



Teabreak

中華まんの季節到来です！湯気が出ている蒸し器は何とも心惹かれるものですが、あの竹と木で編まれている蒸し器の正式名をご存じですか？「蒸籠」が馴染みのある呼び名ですが「蒸籠」ではなく「蒸籠ヅヨリ」と呼びます。小型のものは「小籠ヅヨリ」と呼び名が変わります。大きな蒸し器は蒸籠 小さいのは小籠 なんだか中華通になったような気がしますね。

弊社 HP は www.isekiseihon.com

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本